

法人事業報告と成果

令和2年度においては新型コロナウイルス感染症が全国で猛威を振るう中、当法人としても感染症予防のため、計画通りの事業推進していくことが困難となり、年間計画を大幅に修正しながらの運営となりました。感染症対策として法人内外でのPPE研修・マニュアル作成、発生時を想定しての初動対応シミュレーション等を一般職にまで落とし込み、現在も予防に努めているところです。しかしながらコロナ禍の状況下においても正しい感染症予防知識を持ちながらご利用者へのケア・支援に対応し、感染フェーズを見極めながら柔軟に地域福祉の実践に取り組みました。

当会計年度においてはサービス活動収益は法人全体で前年対比100.7%と前年の収入は上回ったものの経常増減差額（利益額）においては-6327万となりました。

要因としては船尾苑の介護職員増による人件費増、デイサービスの感染対策による一時休所期間となった点、ワークの新型コロナの影響によりおしぼりリース事業の受注の落ち込みによる収入減が大きな要因となっています。しかしながら、収入だけ数字をみると、船尾苑前年比102%、薫英荘108%、グループホーム事業101.4%となりました。感染症対策で短期利用をロング期間を講じたこと、帰省等がなかったことが結果的にプラスに転じたと考えられます。

その他の取り組み

法人パンフレットとリクルートブックが完成

各種ブランディングの取り組みとして法人パンフレットを一新。また、採用活動に必要なリクルートブックを新たに制作して完成しています。



法人パンフレットとリクルートブック

法人ロゴの作成

福祉を通して社会と人をつなげていくことをモチーフにしたデザイン。

職員全員に投票をして決定したオフィシャルロゴです。

今後、様々なツールに使用し、法人全体の帰属意識の向上・地域における若年層にも薫英会の認知度アップにつなげ「福祉なんでも相談事業」等の地域福祉の向上に努力します。



職員投票により決定したオフィシャルロゴ

薫英会・新たなビジョンの設定

薫英会の次のステップにおけるビジョンを設定しました。「人に向き合い 多様性を受け入れ 社会を調和する」法人のレガシーや現在の取り組み、今後の薫英会がどうあるべきかを考え言語化したものです。経営における意思決定はもとより、理念とともにこのビジョンを職員全員に繰り返し伝えていきます。

技能実習生（インドネシア）入職とその後

新型コロナの影響で20年7月～来日し入職予定でしたが、大幅に遅れ同年12月より入職となっています。日勤業務を主にスタートし、21年8月より夜勤を含めた業務にステップアップ予定です。文化の違いは多少ありますが、学ぶ意欲も高く、職員も刺激を受けながらケアに邁進しています。



2名の技能実習生が入職されました

新型コロナ感染症対策

法人全体でCOVID-19に関する正確な情報収集に努めました。エビデンスを基に都度マニュアルを改正しながら職員への周知徹底を行っています。嘱託医・協力医療機関とも連携をとり、感染疑いのあるご利用者・職員は迅速にPCR検査を受ける体制をとりながら気の抜けない日々が続いています。船尾苑では陰圧装置を導入し、発生時のゾーニングシミュレーションも各事業所で徹底。

また、法人内でPPE（予防具）の取り扱い研修や正しい感染予防研修などを実施し感染対策スキルの底上げを行いました。

その他、対面で会議が行えない状況下での「Zoom（ズーム）」やWi-Fi環境の整備、各業務のICT化も少しずつ職員同士で教え合いながら対応しています。



防護服・グローブ（PPE）の着脱の研修



ズームによる研修や会議



新型コロナウイルスに対する研修

薫英荘 落成式

コロナ禍で中止も検討しましたが、準備から完成までお世話になった方々にお礼の気持ちを伝えたいということから感染対策を徹底した中で開催しています。食事等や催しなどは行うことはできませんでしたが、見学も含めプチギフト等をささやかではありますがお配りさせていただきました。また、地域の方々にも別日で見学会を行っています。



感染対策・規模を縮小して開催



業者の方々への感謝状贈呈



プロジェクト行程のムービー上映



利用者代表によるトーンチャイム演奏

かたつむりの会 地域ケアの取り組み

2020年6月より地域の高齢者が集まって趣味やコミュニケーションの場として法人のスペースを活用し「かたつむりの会」を開催しています。雑談はもちろん、大正琴や体操の趣味を練習したり食事をしたりとコミュニティが形成されています。

しかしながら昨年12月より新型コロナウイルス感染症の再拡大の為、現在まで一時中止となっています。再開できるよう今後も法人として地域のケアの起点になるよう取り組みをしていきます。また、薫英会の「芝生ひろば」を地域に開放しています。コロナ禍が終息しましたら積極的に活用されるようSNSによる情報発信、その他の産業ともコラボレーションした交流も企画していきたいと考えています。



人が集まる「芝生ひろば」



大正琴で楽しまれてる場面

くんえいグランプリ2020 ～感染症予防編～を開催

安全衛生委員会が企画した職員全員参加型のグランプリです。コロナ禍の中、感染予防の意識向上・啓発と「何かポジティブなことを」という目的のもと開催されました。薫英会の感染予防スローガンを決めるため、約150名の職員全員参加型でキャッチフレーズやイラストを含めた作品を募集。約90点の応募作品の中から職員投票により上位5作品をピックアップし、

最後は理事長によって最優秀賞が決定しました。上位5名の職員には報奨金が授与されています。このような時期だからこそポジティブでクリエイティブな企画をしてくれた安全衛生委員会に感謝とともに法人運営にはこうした「余白」も重要だと改めて感じます。



最優秀スローガン『ただかうことより適応すること』



約90点の応募から受賞された5名の職員



所感と課題

新型コロナウイルス感染症が未だ猛威をふるう中で、施設における感染症対策は徹底しなければいけません。しかし終わりがみえない状況下でいかにして利用者の方々の「日常」をつくっていきけるかを継続して考えていかなければいけません。「感染対策」と「日常」を2極化するのではなく、思考し柔軟に対応できるケアと支援の実践に取り組みます。職員全体にもいま現在の「制限された日常」が当たり前にならないよう、客観的視点を常日頃から伝えていくことも重要です。

また、収支の部分に関してはこれまで以上に法人拠点全体の新たな加算取得、稼働率を注視。特に入所施設の薫英荘・船尾苑の収入の最大化を図ることが課題です。特に船尾苑の収入増を1500万を目標値とし、職員1人あたりの生産性を上げていかなければいけません。その為にはICT化をすすめ、ケア・支援の質の向上はもちろんのこと業務効率化を図り、リフレッシュ休暇の導入、より有給取得率のアップにつなげよりはたらきやすい環境づくりをすすめていきます。